

## 平成27年第2回浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 平成27年10月16日(金)
2. 場 所 中央公民館第1会議室
3. 開 会 午後3時00分
4. 閉 会 午後4時00分
5. 出席者 市長 栗山康彦 教育委員長 山田篤  
教育委員長職務代理 藤井徹 教育委員 原田玲子  
教育委員 中務美保子 教育長 中野留美
6. 説明のために出席した者の氏名  
教育次長 櫛田忠 教育総務課長 石田康雄  
学校教育課長 今井豊 こども未来課長 東中悦子  
文化振興課長 小山朋子 生涯学習課長 清水真  
教育総務課 加上正浩(事務局)
7. 議事の概要  
教育次長 平成27年第2回浅口市総合教育会議の開会を宣する。  
次第1 市長挨拶について  
栗山市長 第2回目の総合教育会議を開催する。この総合教育会議は、市長部局と教育委員会部局が十分な意思の疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有するという目的で設置するものであります。本日は、浅口市が主要事業として取り組んでおります学力向上の取組みについて、また、来年度からスタートします「こども園」を含めた幼児教育の充実を議題としておりますので、協議をよろしく申し上げます。本日も皆さんと色々な議論を交わしながら、より良い浅口市の教育の方向性をしっかり導き出して、地域の未来を創造する人づくりの基礎となる教育の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。  
教育次長 次第2 議題について  
浅口市総合教育会議運営要綱第3条の規定により。市長に議事進行を求める。  
市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。  
協議題2 学力向上の取組について  
事務局に説明を求める。  
今井課長 学力向上 NO.1 プロジェクト事業は、今年度3年目を迎え、様々な取り組みを行った。学力テストについては、今年度、理科以外は全国平均を上回っていた。どの学校の先生も一生

- 懸命取り組んだ結果。各学校の良い取り組みを取り入れ、成果に繋げていきたい。
- 栗山市長 家庭での学習時間の確保が重要。学校と家庭との協力が必要。  
中務委員 何か質問はありますか。中務教育委員を指名する。
- 栗山市長 学力向上 NO,1 プロジェクト事業は、3年目を迎え、着実な成果を感じている。全市を挙げての取り組みが浸透している。学校訪問の際にも、校長が1人1人の生徒に目を向けている。子供も落ち着いている。学力テストの結果は、今年は良かったが、来年はわからない。長い目で見てほしい。
- 栗山市長 長い目で見てほしいという意見。その通りだと思う。  
山田委員長 山田教育委員長を指名する。
- 山田委員長 学力テストの結果は、着実に上がっている。学力テストは、1つの目安であって、知・徳・体のバランスを掲げた市の環境整備の結果が、徐々に表れている。着実に成果は上がっている。学習時間を増やし、スマホを使用する時間を減らすには、地域、家庭への協力の働きかけが必要。
- 栗山市長 家庭への指導は重要。どんな取り組みをしているのか。  
今井課長 スマホ対策については児童会、生徒会でも、この問題に取り組んでいる。
- 栗山市長 学習時間を増やすことについては、先生が、教育に専念できるように学級アシスタントを採用し、負担軽減に努めている。現状では、負担感が解消できたとは言い難い。
- 藤井職務代理者 学級アシスタントが、効率よく仕事ができる体制づくりが必要。
- 栗山市長 効率面ではどうか。  
櫛田教育次長 1学期に金光竹小学校に学校訪問した際、学級アシスタントのためにヘルプボードを設置していた。それを見てアシスタントが優先的に処理を行うやり方だった。効率良く処理ができていた。
- 今井課長 学級アシスタントは、校長会、教頭会でも話題になった。長く勤務することで、学級アシスタント本人も自覚を持ってくる。
- 櫛田教育次長 学級アシスタントは、臨時職員のため雇用期間は1年間。続けられるような制度を設定したい。
- 栗山市長 人が大切。良い人を継続して雇用できる様に知恵を出しあってやっていきたい。
- 原田委員 人的予算をつけていただき、充実している。学級アシスタント

- トも学校内でチーム意識を持って、教師集団の一員という自覚を持って勤務していただきたい。
- 栗山市長 学校内のチームの一員となるには、体制づくりを行う必要がある。教師への指導が必要。  
浅口市の先生になりたいという様なやりがいのある学校を目指して頑張ってもらいたい。
- 中務委員 前日、大阪府茨木市を視察した。浅口市は環境に恵まれていて現場の先生方の負担は軽減されていると感じた。  
教育委員会内の先生方の負担が大きすぎる。人的支援が必要。
- 栗山市長 教育委員会が忙しいのは分かっている。内部に目を向け、教育長と相談する。  
質の高い幼児教育を行い、待機児童解消に努めたいが、今後の方向性は。
- 東中課長 幼児期の学校教育・保育の充実に向けて
- (1) 体制の整備  
平成27年度4月1日施行の子ども・子育て支援法に基づく幼児期の学校教育・保育の充実のため、平成26年7月1日から保育事務等を市長部局から教育委員会事務局へ移管し、新設した「こども未来課」で幼稚園事務等と一体的に行っている。
  - (2) 子ども・子育て支援事業計画の策定  
質の高い学校教育・保育の総合的な提供等を目指す「子ども・子育て支援事業計画」を策定した。
  - (3) 子ども・子育て会議の開催  
会議を開催し、「子ども・子育て支援事業計画」推進にあたっての施策の実施状況等について継続的に点検・評価・見直しを行う。
  - (4) 「就学前教育・保育のあり方」の策定  
浅口市における就学前教育の方針を定めた「浅口市の就学前教育・保育のあり方」を策定した。
- 櫛田教育次長 保育所の現状としては、定員を入所希望者が上回っている。  
保育士を確保できれば待機児童をゼロにできる。  
民間事業者の認定こども園と公立のこども園、幼稚園、保育園で、待機児童ゼロを目指したい。
- 中務委員 来年度から寄島でこども園、六条院幼稚園で3歳児保育が始まる。説明会には多数の参加があったと聞く。市民の関心は高い。人的支援が必要。幼稚園と教育員会を繋ぐコーディネー

ターのような指導的立場の指導主事が必要ではないか。さらなる充実を目指してほしい。

栗山市長 人員は大切。前に進むためには人員確保は必要。  
先程説明があった「幼児期の学校教育・保育の充実に向けて」について何か質疑はあるか。

全 委 員 特になし。

栗山市長 英語教育について、総社市では英語特区を設けて取り組んでいる。特区への転入者も多いと聞く。

浅口市では、総社市に負けない位の授業を実施している。問題は、アピールの仕方、一般市民に通じていない。浅口市内で自己満足するのではなく、市外に向けてアピールしてほしい。定住促進にも繋がると考える。

全般で何か質疑はあるか。

山田委員長 浅口市では、定住促進を図るため、色々な働きかけを行っている。主な柱として教育がある。学力テストが岡山県で常に1位、不登校の生徒がゼロ、いじめがゼロであれば、浅口市へ定住する人も増える。人的支援を行って、浅口市の売りはこれだという取り組みを行ってほしい。

栗山市長 アピールは大切。幼稚園、小・中学校への全室エアコン設置は、中四国で浅口市のみ。先生が着任したい NO. 1 でも良い。何かアピールすることが大事。

栗山市長 全般を通して何か質疑はあるか。

全 委 員 特になし。

栗山市長 平成27年第2回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。